

令和 5 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名 : グループホーム たろう

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390200129		
法人名	医療法人 仁泉会		
事業所名	グループホーム たろう		
所在地	〒027-0096 岩手県宮古市崎ヶ崎9-39-1		
自己評価作成日	年月日	評価結果市町村受理日	令和5年10月31日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

東日本大震災にてホームを流出して12年、再建し10年目の施設です。ホーム内は日当たりが良く直接窓からテラスへ行き来する事が出来ます。天気の良い日には、日よけシェードにて日差しの調整をしながら、日向ぼっこやレクリエーションを行っております。新型コロナが第5類に分類され、ご家族様、地域の方々との交流も徐々に再開しております。昨年は新型コロナによるクラスターを経験し利用者様が元気である事のありがたさを職員一同改めて実感しながら、『今日』を大切に共に支えあいながら過ごしていきたいと考えております。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action\\_kouhyou](https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、施設に近接し、同法人の老健やグループホームがあり、共に機能を活かしながら行事への協力、業務への支援を行い、より良い介護サービスを提供している。運営にあたっては、職員の話合いで定めた理念のもと、職員の間を立、日々の業務にあたるほか、運営推進会議の助言を受け、コロナ禍への対応や趣味を活かした利用者の生きがい対策などの実施、嗜好品の提供などの家族の意向や、モップがけなどのお手伝いなど、利用者の要望に対応した介護サービスを提供している。特に、利用者の日々の生活情報や医療機関への受診状況などを居室担当の「お知らせ」で伝え、家庭的な雰囲気のもと、笑顔を大切に、残された能力を生かし、きめ細かな介護サービスを提供し、利用者の安心と家族の信頼を得ている。また、コロナ禍のため地域住民等との交流が制限される中であっても、地域住民からの雑巾生地の提供や作品の小学校への寄付、農家や漁家からの野菜、海産物、魚などの提供があるなど、地域との交流を大切にしている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和5年9月15日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 ○ 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている ○ 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が ○ 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

令和 5 年度

事業所名 : グループホーム たろう

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	昨年は新型コロナクラスターを経験した。昨日まで笑い声であふれかえていたホームの中が一変した。「明日はどうなるんだろう？」という不安を抱えながらも自然と理念が実践できのりきることができた。今、利用者様が元気に過ごしている事に感謝しながら共有する時間を笑顔で過ごせるようケアの提供をしている。	「思い合い共に過ごす時間を大切に」という理念が介護の基本に据えられている。職員が話し合っただめた理念のもと、職員ごとに年度目標を立て、利用者と職員が共同の生活者として家族的な雰囲気大切に、コミュニケーションを取りながら、利用者の笑顔を引き出し、日々の介護サービスを提供している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度より地域の方に声を掛け、家庭で不要になったタオル類や衣類を回収し、ホームのウエスに使用する他、利用者様に雑巾を縫っていただき、近隣小学校への寄付を行っております。	自治会に加入し、広報などの情報を得ているほか、地域の消防団との繋がりを大切にしている。また、農家からの野菜、漁家からの海産物の提供がある。また、地域連絡会に参加し防災対策の連携を図っている。住民からの雑巾布の提供、作品の小学校への寄付も行なっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	県立看護学校での認知症サポーター養成講座、看護学生、支援学校の自習受け入れは毎年行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	令和5年6月より開催。推進委員の変更もあり、普段の状況を理解していただき助言いただいている。	集合しての会議開催により委員の協力を強く感じている。トイレに頻回に通う利用者が雑巾縫いに集中して症状が改善されたことに対し、委員から小学校に雑巾を寄付してはとの提案・協力があり、利用者の生きがいに繋がっている。委員会の協議結果を業務の改善や充実に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市担当者には事業所では解決できない困難ケース等、相談し助言をいただいている。又、地域包括支援センターと連携し在宅生活での困難事例等の解決に取り組んでいる。	運営推進会議委員の職員からはコロナ禍対策の助言をいただき、地域包括支援センター職員とはショートステイの調整のほか、各種情報をメールや文書で提供されている。市からは、要介護認定申請時の助言や指導のほか、市主催の研修会に参加し、虐待、身体拘束などの防止に活かしている。	

令和 5 年度

事業所名 : グループホーム たろう

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は施錠しておらず、帰宅願望のある利用者様には散歩やドライブに同行し気分転換の工夫をしている。年2回の法人内の研修には全職員eラーニングにて参加。事業所内では虐待防止とセットで勉強会を行い、日常のケアについて振り返る機会を作っている。	法人の本部の委員会に職員が参加し、検討結果を職員会議等を通じて周知し、趣旨の徹底を図っている。身体拘束防止の勉強会も開催している。身体拘束の事例は無い。玄関や引き戸の施錠は夜間のみである。転倒防止のため、床や背へのセンサーマットのほか、赤外線による離床確認を一部使用している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	法人内の研修には全職員eラーニングにて参加している。事業所内では身体拘束とセットで勉強会を行い、虐待が見過ごされることのないよう防止に努めている。又、職員の心身の健康管理に注意している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内の研修には全職員eラーニングにて参加している。入居者1名成年後見制度の利用あり。成年後見制度活用するにあたり市職員に協力を仰ぎ、保佐人による財産管理をしていただいている。関係者と随時情報共有しながら支援を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居、デイサービス利用前に、面談、見学、担当者会議等で不安や疑問点を尋ねその場で説明し理解していただいている。改定の際にも十分な説明を行い、安心してサービスを利用していただけるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月、利用者様の各担当職員が近況を『お知らせ』にて郵送。意見や要望を自由に記入していただけるようにしている。又、面会時に気軽にお話いただける環境作りをし、デイサービスでは送迎時に直接意見交換を行っている。	施設の広報を年4回作成するほか、毎月、居室担当作成のお知らせを家族に提供している。面会時や受診時に家族から要望等を聴き取り、利用者への介護サービスに反映させている。利用者からのお手伝いや食べ物、買物などの要望にも対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のカンファレンスと業務会議の他、日々の申し送り等、日頃から職員の意見や提案を聞き取り業務や活動に反映している。又、必要時に個人面談を行っている。	毎月の業務改善会議や職員との面談による要望や提案を受け、行事やレクリエーション、勤務体制の変更などに活かしている。また、職員から提案のあった廊下への手すりや西日対策のカーテンの設置、テラスの改築などの施設の整備、菜園の野菜栽培の拡充なども具体化している。	

令和 5 年度

事業所名 : グループホーム たろう

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人事業計画、部署目標に沿って個人目標を設定。各自がやりがいや向上心を持って働いている。休みや勤務体制は個々に要望を聞き、負担にならないよう調整している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々のスキルに合わせ研修や資格取得の提案、機会の確保を行い支援している。毎月、担当職員が勉強会資料をテーマに沿って作成する事でケアの見直しやブラッシュアップにも役立てている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内外の研修会や勉強会参加により得た情報により質の向上に努めている。月1回の法人内の会議や各委員会出席にて情報を反映させている。管理者は必要に応じて法人内の6ホームでホーム長会議を開催。近隣ホームの職員とは日頃より短時間でも交流する機会もあり、お互いに良好な関係作りをしている。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	長期入所希望の利用者様には、デイサービスやショートステイを利用していただき、入居者様、職員と顔馴染みになる事で安心してサービスを利用できるよう心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用前にケアマネと自宅訪問する。ご本人様と一緒にホームに来訪していただく等。見学をしながらご家族様の不安や要望に耳を傾け、納得、安心して利用できるよう説明している。今後も気軽に声をかけていただけるような関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	申請時にご家族、居宅ケアマネから情報をいただき本人様の状況、ご家族様の要望を把握し職員間で検討を行う。又、担当者会議にて他事業所との連携を取っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は入居者様個々の、得意な事、楽しい事、又は嫌な事を把握しており、お互い助け合いながら役割を持った生活ができるよう支援している。時には人生の先輩として職員に的確なアドバイスをいただいている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	通院、物品購入にてご家族様の協力を得ている。外出が出来ないため、電話での会話や写真を送るなど近況報告をおこなっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	玄関窓越しでの面会から玄関の中での面会が可能となった。外出も思うように出来な為、ドライブにて馴染みの地域や場所を巡る等、工夫している。	市の敬老会の景品の提供のほか、知人、友人の面会、認知症デイサービス3名との交流などがある。ドライブの際には、利用者の思い出の場所や自宅周辺を周遊している。懐かしいビスケット、チョコレートの買物や、漁家から口開け時に、うに、昆布などの提供もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々に自分のお気に入りの場所がありそれぞれの場所に来て作業や会話を楽しんでいる。職員はトラブル、事故が起きないように直ぐに対応できる場所で見守りを行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院等で退居されても退院後のサービスの導入や相談。病院連携室と連絡を取り合い、退院後の支援の検討を行いご家族さまが安心できるよう支援している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の思いやご家族からの情報をいただき笑顔で過ごせるよう対応している。又、日常生活の中で観察し、様々な角度からアプローチし生き甲斐を持って生活できるよう支援している。	テーブル拭き、洗濯たたみ、モップがけなどのお手伝いのほか、花壇の草取りなどの要望に対応している。前歴の経験を活かした対応や踊りの先生の指導、毛筆による短冊の作成など、趣味などにも配慮している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前、入居後、本人様やご家族様、ケアマネから情報を収集し課題分析に反映させ職員間での情報共有に努めている。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム たろう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日の体調や気分によって出来る事、出来ない事、状況が変化中、その時々を把握しカンファレンスや申し送りにて周知支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスや申し送りにて状況を共有している。又、職員個々が日常生活の中で様々な角度からアプローチする事で、本人様の持っている力を引き出し介護計画に反映する事が出来ている。	計画の短期3か月、長期6か月ごとの見直しを行っている。居室担当によるモニタリングを経て、職員によるカンファレンスでの検討を加え、ケアマネが評価し、計画を作成している。事前に家族に説明し、要望を受け入れている。医師の指示等も反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、ケアなどは個別ケースに記録している。気付いた事や実践、結果までの流れを1日、時間単位で報告しあい状況が悪化しないよう計画書に反映する事が出来ている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、ご家族の希望、その日の状況に応じて送迎時間、面会時間の配慮、ショートステイ受け入れ等勤務者の人数や時間を調整し、柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	昨年より地域の美容師さんに来訪していただきヘアカットを行っている。利用者様も2か月に1回のカットを楽しみにしている。又、地域の方より不要なタオル類や衣類をいただき、裁縫の得意な利用者様の雑巾縫い等やりがいをもちながら力の発揮が出来ている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的に入居前からの主治医に通院しているが状況によって主治医、ご家族様と相談し適切な医療を受けられるよう専門医へ紹介状を書いたいただく事もある。受診の際はご家族に協力を受けている。又、週1回の訪問看護との連携。緊急時、夜間、休日には県立病院の協力をいただいている。	原則家族同伴で3名が受診している。他の利用者は、家族の要請や医師の指示により職員が同行している。皮膚科、眼科、精神科などの特別科も同様である。歯科は職員が同行している。家族へはケース記録の写しやバイタルチェック記録などを提供している。受診後の聴き取り、受診情報を提供するほか、通院記録として記載保存している。コロナ禍の予防接種は老健が実施した。	

令和 5 年度

事業所名 : グループホーム たろう

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護事業所と契約しており、週1回の定期訪問時に通院記録、体調の変化を報告、相談し助言をいただいている。24時間対応にて急変時には訪問、指示を受け受診している。又、年2回訪問看護師による勉強会を開催している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時にはホームでの生活状況、既往歴等情報提供を行い、入院中は医療連携室、ご家族と連携をとり早期退院に向け行動している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、重度化及び看取り指針についてご家族に説明。ホームで出来る事、出来ない事を説明しご家族の意向を確認し同意をいただいている。入居者様の状態の変化に応じご家族様の意向を確認しながら主治医と相談し、ホームでの生活を継続できるよう支援している。	入居時に重度化した場合の対応を説明し、了承を得ている。重度化した場合は改めて家族に説明し同意を得て、医療機関等に移送している。施設での看取り経験はないが、終末期には、訪問看護師の指導や他施設での看取り経験を活かし、介護サービスを提供している。	重度化した場合や終末期の介護サービスの充実を図るため、他施設での看取り経験や介護サービスの事例研究などによる検討会や研修会などの開催を期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員、救命講習を受講している。又、法人内の講習会に参加。ホーム内でも年1回、異動の際や必要に応じて勉強会を行っている。ホーム内にはAED、誤嚥時の吸引ノズルを設置している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練の他、地震、土砂災害による緊急招集訓練を行い。それぞれの状況に応じて自宅からホームまでの利用ルートが何本あるのか個々で確認を行った。	年2回の火災の避難訓練を実施した。夜間想定訓練を薄暮時に実施した。新感染症対策により、地域防災組織(分団)の協力は得なかった。通報訓練を老健の協力を得て実施した。ハザードマップで避難場所を確認している。3日分の備蓄食料の他、発電機、ガスコンロ、反射式ストーブを確保している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様が笑顔で穏やかに過ごせるよう、関わり方とし『目配り、気くばり、心配り』を掲げ、個々の人柄や思いに寄り添えるよう心掛けている。	個人情報、個人ごとにファイル保存している。パソコン情報は、パスワードで管理している。入浴、排泄などの異性介助は問題はないが、利用者の申し出があれば対応している。踊りの師匠、勤務歴など利用者の誇りや心情を大切に対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事、入浴、外出等の希望を聞いたり、個々で出来るレクリエーションの数を充実させ、好きな事を好きな時間にできるように準備している。意思疎通の困難な利用者様には様子を見ながら対応するよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様のその日の状態や気分配慮し思いのまま自分のペースで過ごしていただけるよう安否確認見守りを徹底している。又、体の不自由な利用者様のレク活動には職員がサポートする事で皆さんで行うレク活動への参加の実現が出来る。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容師さんが来訪する事により、気持ちが華やかになり利用者様同士で褒め合う姿が見られる。又、男性利用者様は毎朝、電気シェーバーを手に持ち鏡で確認しながら髭剃りを行っており、終了時にはシェーバーの掃除を行うことまでが日課となっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その日冷蔵庫にあるもので何をどのようにして食べたいか利用者様に聞き、作り方や味付けを行っている。又、リクエストに答えられるよう、誕生会や行事を盛り込み食事を楽しめるようにしている。片付けや配膳、テーブル拭きも出来る範囲でお手伝いいただいている。	近くのスーパーで食材を確保し、職員が料理し提供している。利用者は、調理の下準備、具材の攪拌、テーブル拭き、茶碗洗いを手伝っている。菜園で穫れた野菜や農家の野菜、漁家の海産物の差し入れも活用している。季節ごとの節句料理や郷土料理のほか、夏祭り、ポテト、たこやき、やきそば、そうめんなどを提供している。ノンアルコールや寿司などの要望にも対応している。	



令和 5 年度

事業所名 : グループホーム たろう

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様の状態や好みに応じて提供し水分量の確保が出来ている。1日の水分摂取量を記録しており、排泄記録と共に健康状態の把握が出来ている。月1回の体重測定を行い、個々に合った栄養バランスを検討し工夫しながら提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の能力に応じて介助や用具を使用し口腔ケアを行っている。月1回、歯科衛生士が訪問し口腔衛生管理が行われており、相談や指導をいただいている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、日中はトイレ誘導にて失禁の回数を減らす事が出来ている。又、失禁の量や失禁パターンに合わせて布パンツにしたりリハビリパンを使用したり、パッドのサイズを調整している。	排泄チェック表で動向を把握し、様子をみてトイレに誘導している。失敗した場合は、利用者の心情を大切に、それとなく誘導し、交換、清拭、シャワーで対応している。夜間のポータブルトイレ使用は1名である。オムツ使用は2名、布パンツ(薄手パット併用)3名、他者はリハビリパンツにパット併用である。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量、食事の工夫の他、無理のない程度に体を動かすよう働きかけている。個々の排泄パターンを把握し、下剤服用時間を調整し日中トイレで排便できるよう調整している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	希望により毎日入浴可能。最低でも1日おきには入浴できるようにしている。入居者様の体調や気分、状況にあわせ入浴支援している。	2日に1回の入浴で、1日4、5人が入浴している。長期の入浴拒否者はなく、希望により入浴日を変更している。1番風呂などの要望にも対応している。入浴剤を使用することもある。季節には、菖蒲、ゆず湯、リンゴ湯を提供している。入浴時は、歌や世間話でくつろぎ、職員とのコミュニケーションの場ともなっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々生活習慣にて居室の明るさの調整を行い定時の巡視にて安全確認を行っている。昼夜逆転している入居者様には日中の活動量を増やす工夫をしている。午睡される方には安否確認しながら1時間程度で声掛けし夜間良眠できるよう支援している。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム たろう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬が変更になったり、新しく処方された場合は、副作用のリスクを予測し観察、職員間で周知している。下剤はその日、前後の状況を把握し調整を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴や日課を把握し、役割をもって出来る事を継続して行う事により力の発揮が出来ている。又、自室にテレビを設置する事で好きな時間に見たいテレビを見ながらくつろいだり、風呂上りのビールを楽しみとしている方もおられる。気分転換として外のテラスに出たりドライブや散歩を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人一人、その日の希望に沿っての外出は難しいが天気の良い日は利用者の希望を聞き近隣へのドライブや受診の帰りなど、景色の良い場所や季節を感じられる場所へ遠回りしながら帰って来るよう支援している。	天気の良い日は、施設の周辺を散歩している。外での体操、菜園の世話、周辺の草取り、テラスでの流しソーメンなどを行なっている。ドライブでは、海や道の駅などに出かけている。利用者の帰宅願望対応のほか、要望でミニドライブに出ることもある。最近入居した利用者から外泊の要望もある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持している利用者はいないが、買い物の希望があれば職員が同行し立替にて買い物を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個人あてのプレゼントや差し入等、郵送されてきた場合は、職員が代行で電話をかけ、本人が話ができるよう取り次いでいる。手紙のやり取りが困難になった入居者様には職員が代行し、ホームでの生活の様子を写真付きで郵送する支援を行っている。		

令和 5 年度

事業所名 : グループホーム たろう

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内は日当たりも良く、年間通して暖かい。気温が上がり過ぎたり日差しが強くなる為、排煙窓にロールカーテン設置し日差しの調整を行っている。天気の良い日は外テラスにて日向ぼっこや、レク活動を行い気分転換ができる。ホール内は季節ごとにディスプレイを行い季節を感じることができるよう工夫している。又、台所は対面式となっており、作っている様子を視覚や嗅覚で感じる事ができる。	南向きの施設で、大型の排気窓や引き戸から光が入り、白い壁や木調の床で、天井も高く、広々としたロビーは明るく開放感がある。壁には、短冊など利用者の作品が貼付され、季節ごとの飾りも置かれ、食事用テーブル、ソファ、3畳の小上がり、思い思いの場所で寛いでいる。郷土のカルタには関心が高く、札の取り合いに興じている。温度や空調は、エアコン、床暖、大型ファン、脱衣所にはパネルヒーターなどで、適正に管理されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホーム内のホールは広く数多くの椅子、ソファ、移動式の畳を設置しており、思い思いの場所で好きなように過ごすことができる。入居者同士でおしゃべりをしたり新聞や読書をしたり、ソファや畳で横になって休まれている方もおり、遠くからでも職員が見守りしやすいような工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や私物の持ち込み可能。ベッドの位置や椅子、タンス等は本人が安全に使える場所に設置している。それぞれ、テレビやラジオ、お位牌、写真等を持ち込み、居心地よく過ごせるようにしている。	温度等は、エアコン、床暖、加湿器で管理され、流し台、クローゼット、ベッド、チェストが設置されている。布団、テレビ、ラジオ、位牌、家族写真、化粧品などが持ち込まれ、利用者の意向に沿った配置となっている。引き戸から光が入り、明るく、清潔感がある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、浴室、居室にはそれぞれ目印をつけ、歩行が不安定な入居者様にはトイレ近くの居室を利用させていただき、安全に自力で失禁せずトイレを利用できるようにしている。又、居室内からスムーズに出てこれるよう居室内の配置も個々の特徴を把握し工夫している。		